

豊かな人間性を育む道徳教育の充実



■ 今、求められる道徳教育の充実

急速なグローバル化、科学技術の高度化や情報通信技術の進展、少子高齢化など、子どもたちを取り巻く社会の状況は激しく変化し続けています。また、価値観の多様化や人間関係の希薄化に伴って、家庭や地域の教育力、子どもたちの規範意識や自尊感情などに課題が生じ、いじめの問題が重大な社会問題となっています。

今こそ、子どもたちに内在する「より良く生きようとする力」を信じ、子どもたちが夢と希望をもって自分の道を切り拓いていける力をはぐくむことが大切です。学校、家庭、地域が一体となって、子どもたちが生命を大切にする心や他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識等の道徳性を身に付けられるよう、道徳教育の充実が求められています。

■ 本パンフレットの活用について

本パンフレットは平成24年度和歌山県道徳教育総合支援事業の研究協力校の取組を紹介しています。道徳教育推進教師を中心に、全校で道徳教育に取り組む体制が構築されているか、道徳の時間が子どもたちの心に響くものとなっているか、道徳の時間の授業公開をするなど家庭や地域社会との共通理解・相互連携を深めているか、各研究協力校の取組を参考に、各学校において、現職教育等で本パンフレットを活用されることを期待します。

教職員一人一人が道徳教育の重要性をしっかりと認識し、取組を充実させましょう。

体験活動を生かした道徳教育の工夫

高野町立高野山小学校

「豊かな心もち、よりよく生きようとする児童の育成」

体験活動の学びと道徳の時間が相互に響き合い、学習に継続的な深まりをもたせる取組を行っています。

道徳の時間の充実：道徳的实践力を育成します。

- ・ICT機器の活用
→主題に対する興味や関心を高める。
- ・板書の工夫
→気持ちの変化や他者の意見・考えがよくわかるようにする。
- ・表現活動の充実
→体験活動と関連した授業を行い、体験したときの気持ちなどを引き出す。
- ・家庭や地域との連携
→全学年が授業参観で道徳の時間の授業公開を行い、保護者懇談会で道徳の時間について交流する。

ICT機器の活用



表現活動の充実



家庭や地域との連携



林業体験



和歌山大学附属小学校との交流学习



挨拶運動



地域の人々や社会で活躍する人々の協力を得て、郷土を愛する心を育てています。

町内外の学校と交流することで、自分の役割を果たしながら他者と積極的に力のかかわる力の育成を図っています。

異年齢集団の活動などを通じて、児童相互のつながりを深め、互いに認め合う心をはぐくんでいます。

外部人材の活用

交流学习

特別活動

体験活動の充実：豊かな体験を通して道徳性を育成します。

道徳の時間の充実

～総合単元的な構想～

和歌山市立松江小学校

豊かな心と生きる力をはぐくむ道徳教育 ～いきいきとかがやく子どもをめざして～

研究の柱：＜道徳の時間の充実＞ ＜総合単元的な構想＞ ＜地域の人々との交流＞

道徳の時間を核とした総合単元的な道徳学習に取り組んでいます。年間を通して他教科や体験活動との関わりや流れを考え、道徳的心情を豊かにするための教材を中心に単元構想図を描き、発展させながら研究を進めています。

道徳の時間の充実



ペープサート（紙人形劇）や役割演技・動作化などの活用により、自分の気持ちや考えを表現しやすくする工夫をしています。



紙芝居やビデオなどを、物語に入り込みやすくするための導入や、終末の説話等に活用しています。



話し合いを中心にお互いの考えを出し合い、認め合ったり、よりよく生きるために自己を振り返らせたりできるよう工夫しています。

総合単元的な構想

＜4年生の例＞

相手の気持ちを考えて
～なかまとともに～

社会
「地いきのはってんにつくした人々」

総合的な学習の時間
「障害について知ろう」
「お年寄りを大切に」

道徳の時間

主題名：かけがえのない命
資料名：「いなむらの火」
ねらい：3－（1）生命尊重

体育
「運動会」
「バスケットボール」

道徳の時間

主題名：進んで活動する
資料名：「点字メニューに挑戦」
ねらい：1－（4）明朗・誠実

道徳の時間

主題名：夢をかなえるために
資料名：「いつかにじをかける」
ねらい：1－（2）ととう不屈・努力

国語

「ごんぎつね」
「手と心で読む」

特別活動 「松江クリーン作戦」「学年発表会」

地域の人々との交流

道徳の時間と関連付けた地域学習や地域の人々との関わりの中で、子どもたちの道徳性をはぐくみます。



パトロール隊



ありがとう集会



福祉施設の訪問



昔あそび

ふるさと・地域を題材にした道徳の授業づくり

串本町立大島小学校

- トルコの軍艦エルトゥールル号遭難事故とその後の交流にまつわる郷土資料を教材化し活用する。
- 地域の人々やその他関連する人々から学ぶ。



この地で育ったことを誇りに思うとともに、

「生命を尊重する心」「郷土を愛する心」「人と人、国と国とのつながりを大切にする心」をはぐくみます。

系統的に構成した道徳の授業づくり

1・2年生の授業

エルトゥールル号の遭難
～トルコとの交流～
【4－（5）郷土愛】

トルコと自分の町の交流を知り、自分の住む町に愛着をもつ。



<児童の声>

トルコの人、「ありがとう」をいいにきてくれる。大しまとなかよし。

3年生の授業

エルトゥールル号の遭難
～追悼歌を歌う意味を考える～
【3－（1）生命尊重】

地域の先人の思いを受け継ぎ、命の大切さについて考える。

<児童の声>

みんなの気持ちを込めた歌。海とお墓にいる人のために歌う。



6年生の授業

テヘランからの脱出
～沼田さんからの聞き取りを通して～
【4－（8）国際理解】

トルコと日本の交流について理解を深める。



総合的な学習の時間に沼田さん（イラン・イラク戦争時に、トルコ航空機により救出された日本人の一人）から何ったお話をもとに、人と人、国と国とのかわりの大切さを知り、自分たちの役割を考える。

4・5年生の授業

エルトゥールル号の遭難
～遺品の引き上げ～
【3－（1）生命尊重】

遺品の引き上げ作業を通して、命の大切さを考える。



遺品の引き上げ船の船長鈴木さんをゲストティーチャーに招き、引き上げ作業の詳しい話を聞き、人々の生きた証を感じ生命を尊重しようとする心情を深める。

未来へ受け継ぐ本校児童の役割



追悼歌斉唱



慰霊碑付近の清掃活動



追悼式典への出席



トルコからの来賓との交流

道徳教育ではぐくむ

「感謝の念」「自尊感情」「未来への希望」

湯浅町立湯浅中学校

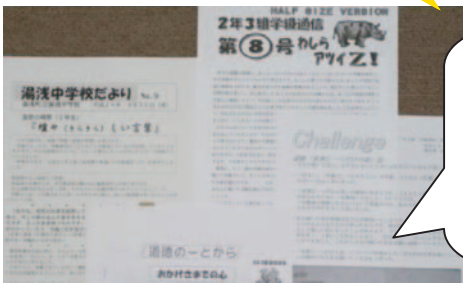
私たちがより良い生き方を求めて生きていくためには、『感謝の念』『自尊感情』『未来への希望』という3つの感情が必要だという仮説を立てました。

- ・『感謝の念』とは…生まれてきたこと、多くの人々に支えられて生きていることへの感謝の気持ちです。
 - ・『自尊感情』とは…自分も世のため、人のために役立つことができるという自信です。
 - ・『未来への希望』とは…頑張ればきっと良いことがあると考える、明るい前向きな気持ちです。
- これらの感情をはぐくむことを念頭に置いて道徳教育を推進します。

学校行事・ボランティア活動等に連動！



保護者・地域との連携



道徳教育の要は
道徳の時間！



道徳の時間の
事前・事後研究を大切に

【毎週行う授業検討】

- ・毎週、授業を行う前に学年で検討会を行います。授業のねらい、展開、発問や指示について意見を出し合い、指導案が改善されます。

【ベテランのテクニックを学ぶ】

- ・管理職をはじめ参観できる教師は積極的に参観し、感想等を伝えます。

【毎時間の振り返り】

- ・授業後、授業者と参観者が集い反省会を行います。それぞれの授業を振り返り、以降の実践に生かされます。

PTA総会や保護者会で道徳教育について説明します。また、アンケート調査を実施したり、学校だより、学年通信、学級通信で家庭に情報を届けたり、学校と家庭が協力して道徳教育を行う体制を構築します。

これらの実践を繰り返し、年間指導計画を改善していきます。定期的に研究授業も行います。また、全教師が道徳の時間の授業を自作し、批評会を行います。

【授業者のコメント】

研究仮説に則って様々な授業研究がなされました。

「おかげさま」という言葉を入り口に、多くの人々や万物のおかげで私たちの今があることに気づき、「感謝」する心を育てました。「自尊感情」を高めるために、自分の長所をクラスのみならず認められる授業をどの学年でも行いました。アンジェラ・アキさんの歌う「手紙」を資料として扱った授業では、今の自分が抱えるしんどさを見つめながら、未来に向かって「希望」をもって生きていく誓いを立てることができました。

効果→授業力アップ！

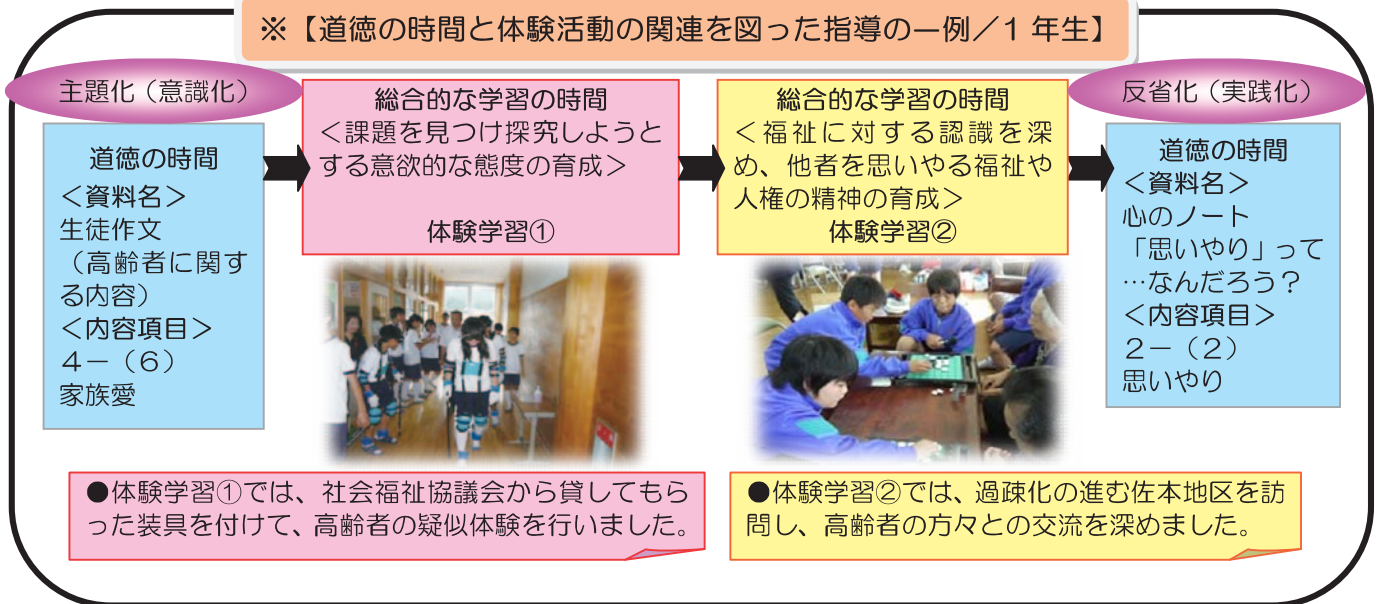
道徳の時間の授業研究は全教職員が協議できる場です。毎週行われる授業検討会を通して教師の授業力が高められ、そのことは生徒の学習意欲、学力の向上につながるばかりか、教師への信頼感が増し、学級経営、教育相談、生徒指導に効果を発揮します。

体験活動を通して自尊感情の高揚を目指した道徳教育の推進

すさみ町立周参見中学校

本校では、自尊感情を高める体験活動を充実させ、それらの活動や日常の学習で学んだことを道徳の時間で振り返りながら深めていくことで、子どもたちの道徳性をはぐくむ取組をしています。

※【道徳の時間と体験活動の関連を図った指導の一例／1年生】



【校内研修の充実】

全教職員で道徳教育に取り組み、①～⑤の流れで校内研修の充実を図っています。夏期研修会では、読み物資料やロールプレイ、グループアプローチ等様々な指導案が出され、2学期以降はその指導案が各学年で活用されています。

- ① 夏休み中に全教師が指導案を作成する。
- ② 『道徳教育研修講座』（教育センター学びの丘主催）を全教師が受講する。
- ③ 全教師が夏休み中の現職教育において指導案のプレゼンテーションを行う。
- ④ 2学期以降、③の指導案を活用して学年代表による研究授業を実施する。
- ⑤ 事前研究、事後研究（西牟婁教育支援事務所、教育センター学びの丘、すさみ町教育委員会指導主事招聘）で研修を深める。

【継続した取組の成果】

アンケート結果等から、規範意識、自尊感情に一定の成果が見られました。また、何事に対しても前向きに取り組んでみようとする態度が育まれています。

【アンケート結果から】	H21年度	H24年度
授業には真面目に取り組んでいる	51%	89%
先生は分かる授業をしてくれているか	70%	84%
学校が楽しい	63%	90%
自分に自信が持てる部分がある	35%	1年：20% 2年：61% 3年：70%



地域教材など魅力的な教材の活用



道徳の時間では、子どもたちが、読み物資料の中の登場人物への共感などを通して価値の内面的な自覚を深めていきます。資料が子どもたちにとって魅力的なものであるかどうか、道徳の時間の成功の力ギとなります。魅力的な教材のひとつが地域教材です。

<魅力的な資料とは？>

- ・興味・関心や発達に応じ、親近感がもてるもの
- ・感性に訴え、感動を覚えるもの
- ・意外性や問題性を含み、子どもが自分の課題としてとらえることができるもの
- ・主人公の迷い、弱さ、葛藤、生きる喜びが浮き彫りになっているもの
- ・やってみよう、調べてみようとする意欲を引き出し、体験や学習がひろがるもの



今、なぜ地域教材か



地域とのかかわりの希薄化が進む中、子どもたちが憧れと尊敬をもって生き方や考え方を学ぶことができるモデルが少なくなっています。よりよいコミュニケーションの取り方が分からず、一人で悩む子どもたちも少なくありません。

地域にまつわる先人の伝記、伝統・文化や自然等を題材にした教材の開発・活用によって、子どもたちに親近感や興味・関心を抱かせ、郷土愛や思いやりの心をはぐくむのに効果的です。本県は教材となる素材が豊富なことから、地域教材の開発や活用に取り組んでいきましょう。

地域教材開発で指導力アップ！

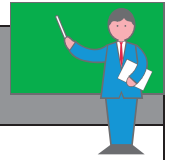
地域教材の作成に取り組むことで、教師は地域を知り、地域の人とより交流を深めることができます。また、地域の先人や出来事を教材化することで、教師自身の道徳的な見方・考え方が深みを増し、子どもたちにとって今必要なものが見えてきます。

地域教材作成上のポイント！

- ・ねらいを明確にすること ○ ○ ○ 授業の中でどのような道徳的価値に焦点を当てて話し合いを進めていくのかをしっかりと押さえる。
- ・発達の段階や学年段階を踏まえていること ○ ○ ○ 限られた時間の中でしっかり考えさせるために、教材に使う読み物は長く難しくないものが望ましい。子どもたちの実態に応じた内容をわかりやすく書くことがポイント！
- ・事実に基づいていること ○ ○ ○
- ・具体的なエピソードについての情報をたくさん収集して、それを生かすこと ○ ○ ○
- ・教材文の構成（起承転結）を工夫すること ○ ○ ○
- ・悩みや壁を克服できたことを中心に作成すること ○ ○ ○
- ・副詞、副詞句を効果的に使い、中心発問を考えること ○ ○ ○ 直接登場人物の心情を尋ねずに、副詞、副詞句を効果的に使って多様な子どもの意見を引き出す。多くの場合、中心発問にふさわしい副詞・副詞句は最後から数行前に！（登場人物の気持ちばかりを問う授業は平板で教師主導の授業になる。）
- ・著作権等に関する配慮をすること ○ ○ ○
- ・道徳と他教科との違いに留意すること ○ ○ ○ (例) 国語…言語に対するすべてのことを学ぶ。
道徳…道徳的価値について書かれている。しかし、一番大事なことは書かれていない。そのことを共に考える。

○道徳教育充実のためのチェックリスト

「あなたの学校ではできていますか？」



<道徳教育を組織的に取り組む体制づくりと実効性のある諸計画の作成>

- 自校の児童生徒を道徳的な観点からどのように育てたいのかを明らかにして、その方針に基づき、道徳教育推進教師等を中心に全教職員による協力体制をつくっている。
- 児童生徒の実態に応じて重点的な指導を工夫し、実効性のある年間指導計画を作成している。
- 道徳の時間と各教育活動を響き合わせるように、「つながり」を重視した年間指導計画を立てている。

<言葉を生かし考えを深める道徳の時間の工夫>

- ねらいを明確にするための資料分析や中心発問の研究を行っている。
- 児童生徒の意見を引き出し、立ち止まって考えさせ、議論を作り出していくような話し合い活動を充実させている。(指導者ばかりが話しすぎる授業になっていない。)

<学校、家庭、地域社会の連携による道徳教育の推進>

- 授業参観や学校開放月間などの機会に道徳の時間の授業公開をしている。
- 学校便り等で、道徳教育のねらいや内容、子どもの様子、また、家庭が果たす役割について知らせている。
- 家庭や地域との連携を深める取組を行っている。

平成 24 年度和歌山県道徳教育推進協議会委員 (五十音順 敬称略)

川端 良幸	和歌山市立高松小学校長 (和歌山県小学校道徳教育研究会会長)	川本 真哉	すさみ町立周参見中学校長
中迫 義弘	高野町立高野山小学校長	中道美代子	串本町立大島小学校長
藤本 禎男	和歌山市立日進中学校長 (和歌山県中学校道徳教育研究会会長)	前窪三貴子	和歌山県 P T A 連合会副会長
御前 充司	湯浅町立湯浅中学校長	山縣いずみ	那智勝浦町地域ふれあい ネットワーク実行委員会 コーディネーター
横瀬 勤	和歌山市立松江小学校長	淀澤 勝治	兵庫教育大学大学院准教授
田中 一寿	県教育庁学校指導課副課長		

和歌山県道徳教育推進協議会は、豊かな人間性をはぐくむ道徳教育の充実について協議しています。



このパンフレットは再生紙を使用し、環境に優しい植物油インキで印刷しています。

平成 25 年 3 月発行

(事務局) 和歌山県教育庁学校教育局 学校指導課
和歌山市小松原通 1 丁目 1 番地 TEL 073-441-3686

